



インタビュー インドネシア新政治体制下での政策の見通し

プラボウォ新政権がもたらす新世界秩序

2024年に誕生したプラボウォ新大統領の政策と方向性を探る。

ジェトロ・アジア経済研究所

在ジャカルタ海外調査員 川村 晃一 氏

プラボウォ新政権による総与党化

—— 昨年は10年ぶりの政権交代でした。

2024年2月14日の大統領選は、1951年生まれ(73歳)のプラボウォ・スビアント氏が得票率59%で圧勝しました。その勝因は、ジョコ前大統領の路線継承と若者世代の支持。副大統領にはジョコ氏の長男ギブラン氏を据え、SNSを通じて「軍出身の強い指導者」像から「好々爺」にイメージ転換できたことが奏功しました。



プラボウォ・スビアント大統領



ギブラン・ラカブミン・ラカ副大統領

安定した政権運営のために法律を改正して、設置可能な省庁・顧問ポストの制限を撤廃するなど大統領権限を強化。その結果、省庁数は大幅に増加(34省→48省)、省庁の新設や分割で閣僚ポストや権限の大量分配が可能となり、4政党の少数連立与党は7政党による連立に拡大、国会議席の8割を確保する総与党化が実現しました。ただでさえ、省庁間で法解釈が食い違ったり、ルール変更が頻繁に行われたりして「法の確立」が問題視される同国です。このような超巨大化した「肥満内閣」による政権運営により、政策決定の“朝令暮改”や許認可申請の手続きの煩雑化がより一層懸念されています。

人気取り政策と「紅白内閣」

—— 具体的にはどういう政策ですか。

ジョコ政権から継承される政策としては、産業の川下化、インフラ開発、デジタル経済の推進、気候変動対策があります。しかし、政権が最も力をいれている政策は、無料栄養食プログラム、無料健康診断プログラム、学校施設のリノベーション、年間300万戸の住宅建設といった社会福祉・再分配政策です。ところが、こうした人気取り政策を優先するあまり、年初には早くも資金不足に陥り、歳出の1割をカットする予算削減を余儀なくされています。

また、国軍出身者やプラボウォの側近で周囲を固め、政権発足前後に合同研修・合宿を実施するなど軍隊式統率で閣内の規律と忠誠心を重視。「紅白(メラプティ)内閣」(インドネシア国旗を指し、ナショナリズムを強調する)と呼ばれるこの政権は、兵器の近代化と国防力強化や食料・エネルギー自給など広義の安全保障政策



「紅白内閣」の就任式(2024年10月21日、中央ジャカルタ・大統領官邸)
(AFP=時事)